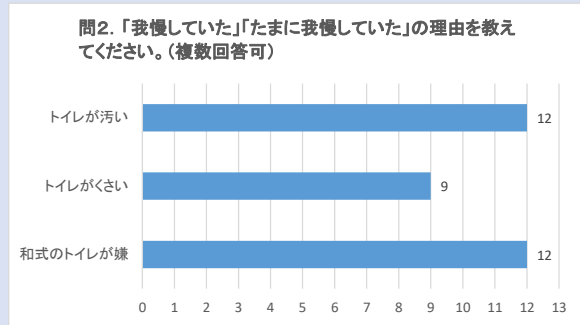
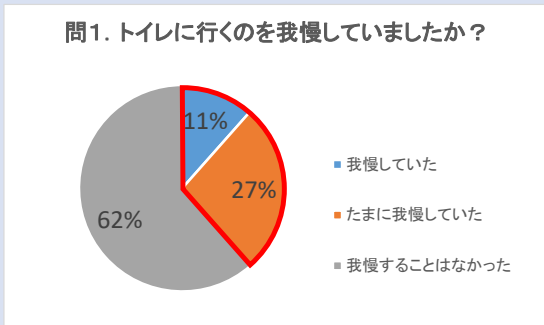


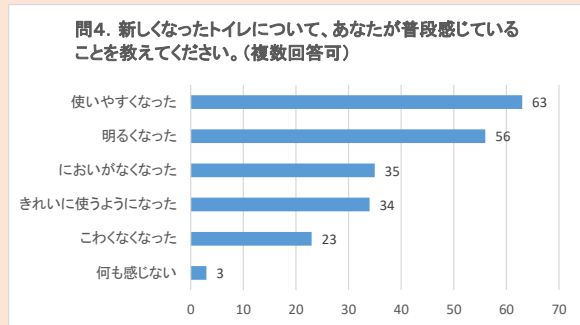
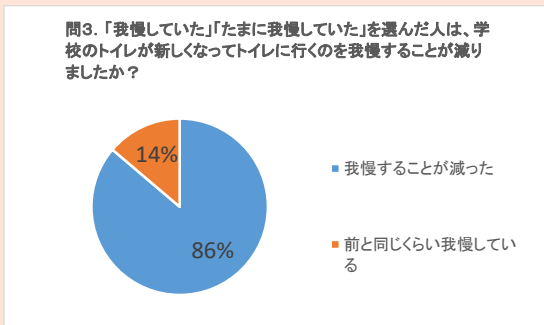
新しくなった学校のトイレに関するアンケート
●対象学校 新宮町立立花小学校(3・4・5・6年生 78名)
●調査時期 令和3年6月

【改修前】



改修前は、38%の児童がトイレに行くのを我慢しており、我慢していた理由のほとんどがトイレ環境によるものであった。

【改修後】



改修により、トイレに行くのを我慢する児童が減った。トイレ環境が改善され、ほとんどの児童が快適に感じている。

トイレ改修(便器の洋式化、床の乾式化等)によりトイレ環境が改善されたことにより、トイレに行くのを我慢することが減り、学習に集中できるという教育環境向上の効果があつた。
改修前トイレに行くのを我慢していた児童のうち、86%の児童が我慢することが減つたと実感している一方、改修後も我慢している14%の児童もいることから、その原因や不安感を軽減する取組も必要であり、今後も引き続き学校への支援や働きかけに努める。